

事業報告書

当財団は、大阪の国際競争力の強化を図り、大阪の国際化に寄与するため、「外国人の受入促進・活動環境の整備」、「国際交流情報の収集及び発信」、「グローバル人材の育成」に取り組んでおります。

令和3年度は、「OFIX中期経営計画」4年目であり、重点項目として掲げた「外国人相談機能の強化」、「災害時の多言語支援強化」を中心に、それらを支える各種の事業に取り組むとともに、見直した中期経営計画の達成を目指し、事業に取り組みました。

在阪外国人の安全・安心を確保する事業に取り組むとともに、府内市町村・関係機関等との連携を深め、「外国人ワンストップ総合相談窓口」の充実を図るとともに、府内市町村等との一日相談会の共催等を通じ外国人相談体制の強化に努めました。また、昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症に係る相談に対応するとともに、令和4年3月には、ロシア侵攻によるウクライナ避難民支援として、「ウクライナ避難民通訳支援人材バンク制度」を設け、「ウクライナ避難民ワンストップ相談窓口」を開設するなど、変化する環境の中で、情報提供機関として財団の役割を果たしてきました。

財政状況については、長引く低金利の影響を受け、資産運用収入が厳しい状況にありますが、安全性に配慮しながら財源確保に努めました。事業収支については、事業の選択と集中を進めると共に、管理費の縮減を徹底するなど、経営の健全化への取組みを進めました。

I. 事業の実施

令和3年度事業計画に基づき、以下の事業を実施しました。

1 外国人の受入促進・活動環境の整備

- (1) 外国人相談機能の強化
- (2) 災害時の外国人支援の強化
- (3) 多文化共生の環境整備
- (4) 留学生会館の運営

2 国際交流情報の収集及び発信

- (1) OFIXホームページ・SNSの運営

(2) O F I Xニュースの発行

3 グローバル人材の育成

(1) 国際理解教育の促進

II. 財務の強化・体制

1. 事業の効率的な実施

資産の運用については、資産管理運用規程に則り基本財産を棄損することがないように安全性に配慮しつつ効率的な運用に努めるとともに、管理コストの縮減に努めることなどにより、効果的・効率的な事業運営に努めました。

2. 賛助会費の確保

財団事業への参画と協力を得るため、賛助会員の募集を行うと共に、安藤事業賛助会員から一般賛助会員への移行交渉を行い、会費の確保を図りました。

[令和3年度実績]

| 財団賛助会員 | | |
|--------------|-----|-----|
| 法人会員（1口 5万円） | 22社 | 49口 |
| 個人会員（1口 3千円） | 18名 | 20口 |
| 個人会員（1口 8千円） | 1名 | 1口 |
| 個人会員（1口 1万円） | 1名 | 1口 |

Ⅲ. 事業報告

1. 外国人の受入促進・活動環境の整備

(1) 外国人相談機能の強化

① 外国人ワンストップ総合相談窓口の運営

府内外国人が生活・就労等に関する適切な情報に速やかに到達できるよう、国及び大阪府の補助金を受けて、情報提供・相談を行う一元的相談窓口「大阪府外国人情報コーナー」を運営した。

なお、令和3年度も前年に引き続き、新型コロナウイルス感染症に関し、健康・医療やワクチン接種、労働・仕事、在留資格など様々な相談に数多く対応した。

| | |
|----------------|---|
| 対応言語 (11言語) | 日本語、英語、韓国・朝鮮語、中国語、ポルトガル語、スペイン語、タイ語、ベトナム語、フィリピン語、インドネシア語、ネパール語 |
| 対応時間 | (月・金曜日) 9時00分から20時00分まで (火・水・木曜日) 9時00分から17時30分まで (第2・第4日曜日) 13時00分から17時00分まで ※弁護士又は行政書士による専門相談を12回実施。大阪出入国在留管理局との共催による専門相談を12回実施。大阪府労働相談センターとオンラインで結んだ労働相談を18回実施。 |
| 相談件数 | 2,312件 |

② 府内の市町村や国際化協会等との連携による地域相談会などの実施状況

(ア) 大阪府外国人向け行政情報提供窓口相談員ネットワーク会議

大阪府内の市町村など外国人の抱える問題を解決する機関との連携を深めるとともに、相談員や窓口担当職員同士が連携することを目的としてネットワーク会議を開催した。

実施日：令和4年2月18日（金）

内容：講義「FRESCのしくみと活用方法、最新の入国管理状況について」

（講師） 東京出入国在留管理局 在留支援部門 統括審査官 安本 大輔 氏
ワークショップ

出席者数：24名

(イ) 相談員・通訳者研修

大阪府内の市町村等で外国人相談に携わる相談員・通訳者を対象に、よりよい相談サービスを提供するため、最新事情や各種制度等に関する知識の拡充・共有を目的とした研修を実施した。

<第1回>

実施日：令和4年1月14日（金）

場所：マイドームおおさか（会場参加とオンライン参加のハイブリッド形式）

内 容：講義1 「新型コロナ受診相談センターについて」
(講師) 大阪府健康医療部 保健医療室 感染症対策企画課
課長補佐 中筋 伸一 氏
総括主査 岡田 匡貴 氏
講義2 「外国人の医療について」
(講師) 特定非営利活動法人 CHARM 庵原 典子 氏
ワークショップ
出席者数：35名

<第2回>

実 施 日：令和4年3月18日(金)
場 所：マイドームおおさか (オンライン参加者のみ)
講 義：「相談支援のあり方」
(講師) 大阪府立大学名誉教授 コラボレーション実践研究所所長
山中 京子 氏
出席者数：28名

(ウ)外国人住民向け地域合同一日相談会

府内市町村における外国人相談窓口の設置を支援するため、大阪府内の自治体や国際交流協会が、府内の他の市町村などと連携して実施する相談会を共催し、行政書士や弁護士などの専門相談員やボランティア通訳者等を派遣した。

a) 「コロナ禍の外国人のための相談サービス」

実 施 日：令和3年7月17日(土)
場 所：泉佐野市立社会福祉センター
共 催：泉佐野地球交流協会・泉佐野社会福祉協議会
相談内容：在留資格、仕事、福祉、ワクチン接種、生活など
対応言語：英語、中国語、ベトナム語、フィリピン語、ネパール語
相談者数：28名
相談件数：28件

b) 「外国人のための相談会」

実 施 日：令和4年2月4日(金)
場 所：四条畷市市民総合センター
共 催：四条畷市・守口市
相談内容：在留資格、社会保険、労働、教育、生活
対応言語：英語、中国語、ベトナム語、フィリピン語
相談者数：2名
相談件数：4件

c) 「外国人のための1日相談会」

実 施 日：令和4年3月19日(土)
場 所：サンプラザ生涯学習市民センター
共 催：枚方市
相談内容：在留資格、社会保険、労働、教育、生活
対応言語：英語、中国語、スペイン語、ベトナム語
相談者数：3名
相談件数：4件

(エ) 合同オンライン相談会

外国人住民の方への情報提供・相談を行うため、大阪府内の自治体や国際交流協会、その他の団体とオンライン相談会を共催で実施。専門相談員やボランティア通訳者等を派遣した。

- a) 実施日：令和3年7月25日（日）
共催：八尾市国際交流センター・富田林市
対応言語：英語、中国語
相談者数：2名
相談件数：2件
- b) 実施日：令和3年9月28日（火）
共催：和泉市
対応言語：ダリ語
相談者数：1名
相談件数：1件
- c) 実施日：令和3年11月30日（火）
共催：和泉市
対応言語：日本語
相談者数：1名
相談件数：1件

[大阪生活必携・よくある生活質問集の充実等の実施状況]

・生活必携動画の作成

外国人のための生活ガイド「大阪生活必携」の中で、外国人には文字では伝わりにくい場面を平易で理解しやすい動画にし、より多くの外国人に情報を配信した。

[YOUTUBE配信動画]

- ・「住まい探し(事前知識編)」 / [Rent—Finding a home | Home Sweet Home Series - YouTube](#)
・「Rent-Moving in」 / [Rent—Moving in | Home Sweet Home Series - YouTube](#)

③ 一日インフォメーションサービス事業

在住外国人と地域住民の共存共生に資するため、『外国人の住みやすい大阪』を「考える関係機関等連絡会議」の共同事業として、外国人を対象とした「1日インフォメーションサービス」を開催した。大阪府外国人情報コーナーとしては、「生活関連ブース」での相談を担当するとともに、通訳協力を行った。

主催：「一日インフォメーションサービス」実行委員会

(「外国人の住みやすい大阪」を考える関係機関等連絡会議)

(構成：大阪法務局、大阪出入国在留管理局、大阪労働局、日本年金機構大手前年金事務所、全国健康保険協会大阪支部、大阪府、大阪府警察本部、大阪市、大阪弁護士会、大阪府行政書士会、大阪府医師会、大阪府歯科医師会、大阪府薬剤師会、大阪商工会議所、近畿税理士会、大阪府社会保険労務士会、日本学生支援機構大阪日本語教育センター、大阪市立男女共同参画センター子育て活動支援館、関西国際交流団体協議会、大阪府国際交流財団、大阪国際交流センター ※事務局は大阪国際交流センター

対応言語：英語、中国語、韓国・朝鮮語、スペイン語、ポルトガル語、インドネシア語、タイ語、フィリピン語、ベトナム語、ネパール語

<第1回>

実施日：令和3年7月25日（日） 13：00～17：00
場 所：大阪国際交流センター
相談者数：43名
相談件数：71件

<第2回>

実施日：令和3年12月19日（日） 13：00～17：00
場 所：大阪国際交流センター
相談者数：36名
相談件数：62件

④ 外国人相談等にかかる通訳・翻訳ボランティアの活動促進

・コミュニティ通訳ボランティア研修

O F I Xボランティアを対象として、ボランティア制度や活動先について、またコミュニティ通訳についてなど、外部より講師を招き、オンラインで研修を実施した。

実施日：令和4年1月28日（金）

場 所：オンライン（Zoom）

テーマ：「2021年度コミュニティ通訳ボランティア研修」

講 師：岸和田子ども家庭センター 企画調整課 総括主査 燃杭 奈帆子氏

特定非営利活動法人多言語センターファシル 吉富 志津代氏

参加者：26名

⑤ ウクライナ避難民への支援

令和4年3月9日に、「ウクライナ避難民通訳支援人材バンク制度」を創設し、ウクライナ語またはロシア語の通訳ボランティアの緊急募集を行うとともに、ウクライナからの避難民が安心して滞在できるよう生活等の相談を受付ける「ウクライナ避難民ワンストップ相談窓口」を設置した。

人材バンク登録者数 154名（令和4年3月末現在）

(2) 災害時の外国人支援の強化

① 災害時外国人支援体制の確立

(ア) 市町村国際交流協会との連携等

a) 市町村災害事業支援

防災力の鍵となる地域連携及び地域に根差した災害時外国人支援を推進し、さらなる地域力・防災力の向上をめざして、市町村や地域国際交流協会とともに共催事業を実施した。

テ ー マ：「言葉がわからない 体験ゲーム@都島区防災 DAY2021 防災フェスティバル

実 施 日：令和3年11月21日（日）

場 所：桜之宮東公園グラウンド

主 催：（公財）大阪国際交流センター、大阪府国際交流財団

b) 大阪府域における災害時の外国人支援体制づくり

大阪府域の市町村・国際交流協会間の連携やネットワークの強化を目的に、「大阪府災害時外国人支援ネットワーク会議」を開催し、研修や情報交換を行った。

<第1回>

実施日：令和3年6月11日（金）

場 所：マイドームおおさか

テ ー マ：「災害時における広域連携」

内 容：（公財）吹田市国際交流協会、（公財）西宮市国際交流協会（公財）兵庫県国際交流協会による事例発表

参加団体：20 団体

<第2回>

実施日：令和4年1月25日（火）

場 所：マイドームおおさか

テ ー マ：「東日本大震災からの10年で見えたこと」

内 容：（公財）仙台観光国際協会による事例発表

参加団体：14 団体

（イ）大阪府災害時多言語支援センター設置運営・訓練

<訓 練>

実施日：令和4年1月17日（月）

場 所：マイドームおおさか

内 容：南海トラフ巨大地震を想定した大阪府職員の災害研修に合わせた研修マニュアル改訂

② 災害時通訳・翻訳ボランティア制度の運営

（ア）災害時通訳・翻訳ボランティアを対象にした研修

大阪府内に在住されている外国人が安心して暮らせるように多言語支援の一環として、外国語通訳・翻訳ボランティアの人材育成のため、外部講師を招き、オンラインで実施した。

実施日：令和4年3月23日（水）

場 所：オンライン（ZOOM）

内 容：災害時通訳・翻訳ボランティア制度と活動について

参加者：30 人

（イ）大学等と連携し、教員や留学生のボランティア登録を促進するとともに、市町村におけるボランティア制度の充実を促した。

登録ボランティア数：338 名（新規登録者 41 名／令和4年3月末現在）

（ウ）大学、大阪府との三者協定の締結による連携強化

大阪国際大学及び桃山学院大学と当財団、大阪府との三者間で、災害時通訳・翻訳ボランティアの確保等に係る連携に関する協定について交渉を進め、次年度に協定締結の運びとなった。

③ 大阪府災害多言語情報ウェブサイト・アプリ「Osaka Safe Travels」の運営（大阪府委託事業）

災害時に外国人が必要な災害や交通等の情報を多言語（12 言語）で一元的に発信するウェブサイト・

アプリ「Osaka Safe Travels」の運営及び機能の充実を図った。

(3) 多文化共生の環境整備

① OFIXボランティア登録・派遣制度の運営

OFIXボランティア登録制度を運営し、OFIX事業のほか、公共団体等からの依頼に応じてボランティアを派遣した。

<登録ボランティア数（令和4年3月末現在）及び活動実績>

語学ボランティア 391名 派遣人数 60名(延べ)

② 多言語情報提供の支援

行政機関や公的団体等による多言語による情報提供を支援するため、通訳・翻訳サービスを提供した。

③ やさしい日本語事業の普及

「やさしい日本語」を災害時だけでなく平時にも応用することで、より多くの外国人の方にとって分かりやすい情報提供を行うことをめざし、大阪府や府内の市町村、国際化協会等を対象としたネットワーク会議及び研修を実施した。

○やさしい日本語ネットワーク会議

実施日：令和3年7月14日（水）

場 所：オンライン（Zoom）

内 容：松原市のやさしい日本語への取り組み紹介

講 師：松原市 市民協働部 市民協働課 課長補佐 北野 智海氏

一般財団法人松原市文化情報振興事業団 長谷川 徳子氏

参加者：28人

○やさしい日本語研修

<やさしい日本語（基礎編）>

実施日：令和3年9月16日（木）

場 所：オンライン（Zoom）

講 師：「やさしい日本語」有志の会 杉本 篤子氏

参加者：46人

<やさしい日本語（神戸市におけるやさしい日本語への取り組み紹介）>

実施日：令和3年12月16日（木）

場 所：エル・おおさか

講 師：神戸市 市長室 国際部国際課 多文化共生専門員 ダン・チュン・フン氏

参加者：65人

<やさしい日本語（コミュニケーションツールとして職場編）>

実施日：令和4年2月2日（水）

場 所：マイドームおおさか

講 師：チーム「やさしい日本語」 老邑 敬子氏、畑中 英理子氏、高橋 幸枝氏

参加者：56人

④ 地域における多文化共生の促進

多文化共生に関する理解を深めるため、多文化共生 啓発動画「”知ってはりまっか？” マイクロアグレッション」を制作した。

この多文化共生 啓発動画「知ってはりまっか？マイクロアグレッション」は、ケーブルテレビJ:COM (11チャンネル) の大阪府全エリアにおいて、2月1日より放映された。

〈動画概要〉

上方落語の三代目 桂小春團治 氏がナビゲーターをつとめ、日本人が無意識にしてしまう「マイクロアグレッション (Microaggression) の会話を落語調 (一人二役) で、分かりやすく気づかせてくれる、カナダ人の落語家 桂福龍 氏のマイクロアグレッションの経験談。

⑤ 多文化共生連携センターの運営

府内の市町村や国際化協会等が打合せや情報交換等の場として利用できる「多文化共生連携センター」(財団事務所内) を運営した。

(4) 留学生会館の運営

大阪府堺留学生会館オリオン寮の運営及び活用事業

海外から大阪への留学の促進を図るため、大阪府堺留学生会館オリオン寮 (85室) を運営した。(平均入居率 67.7%)

屋上防水、外壁補修、鉄部塗装工事を実施するとともに、居室内の備品 (机、椅子) の更新及びWIFI 環境の整備を行った。

また、入居留学生等を対象とした寮生間交流会を実施した。

※例年実施していた地域住民との交流会は新型コロナウイルス感染症対策の一環として、実施を見合わせた。

・寮生間交流会

実施日：令和3年12月4日 (土)

場 所：大阪府堺留学生会館オリオン寮

参加者：オリオン寮生 計 17名

2. 国際交流情報の収集及び発信

(1) OFIXホームページ・SNSの運営

① OFIXホームページ・SNSの運営等

(ア) OFIXホームページ

災害多言語情報ウェブサイトとの連動を図りつつ、ホームページのリニューアルを行い、財団事業や他団体との共催事業・連携情報をホームページで発信した。

年間アクセス件数：セッション数 85,410 件、ページビュー数 161,019 件

(イ) OFIXフェイスブック

OFIXフェイスブックにおいて、財団事業や他団体との共催事業・連携に関する最新の情報を多言語で配信した。

年間掲載件数：74 件

(ウ) 大阪府災害多言語情報ウェブサイト・アプリの開発・運営（大阪府委託事業） 再掲

災害時に外国人が必要な災害や交通等の情報を多言語（12 言語）で一元的に発信するウェブサイト・アプリ「Osaka Safe Travels」の運営及び機能の充実を図った。

② OFIXニュースの発行

(ア) OFIXニュース

OFIXニュース（日本語、英語）を印刷版と配信版（メールマガジン）で定期的に発行した。PR イベント時や賛助会員勧誘時のツールとして積極的に活用した。

発行回数：4 回（96・97・98・99 号）

発行部数：印刷版 1,209 部（1 回平均 302 部）

配信数 延べ 8,213 件（日本語 1 回平均 1,915 件、英語 1 回平均 551 件）

③ その他の広報ツール

企業や大学等に当財団の事業を広く PR するため、OFIXパンフレットやリーフレットほか、必要な情報を多言語で作成して配布した。報道機関への働きかけや取材依頼への対応を行った。

また、財団事務所内において、多文化共生等の資料を配架する「OFIXプラザ」を運営するなど、情報提供を行った。

(2) 民間国際交流団体等の活動促進

① 近畿地域国際化協会連絡協議会、市町村国際交流協会等との連携促進

近畿地域国際化協会連絡協議会に参画し、近畿の府県・政令市の地域国際化協会との連携を図った。

また、災害時に相互にコーディネーター及び通訳の派遣や翻訳支援を行うため、同協議会において「災害時における外国人支援ネットワークに関する協定書」を締結しており、同協議会と共催で研修会「広域での多言語翻訳支援について考える」や遠隔による災害時多言語支援センター運営訓練などに取り組んだ。

② 関西国際交流ボランティアネットワーク会議（KIV・NET）への参画

関西における国際交流ボランティア活動の発展・振興に寄与することを目的に設立（平成 8 年 3 月）された KIV・NET に参画。

会員数：60 団体（令和 3 年度事務局：大阪国際交流センター）

3. グローバル人材の育成

(1) 国際理解教育の促進

OFIX国際理解教育外国人サポーターの育成・派遣

(大遊協国際交流・援助・研究協会との共催事業)

府内学校の児童・生徒の外国への関心と様々な国についての理解の促進を目的として、OFIX国際理解教育外国人サポーターとして登録している外国人留学生などを、府内学校等で行う国際理解教育授業の講師として派遣するとともに、サポーター育成のための研修を実施した。コロナ禍での授業環境構築を検討し、オンライン（ZOOM）授業や映像教材の作成・貸出しを開始した。

(ア) OFIX国際理解教育外国人サポーターの派遣実績

29校（延べ49校） 対象児童・生徒数：5,098名 サポーター派遣人数：延べ126名

(イ) OFIX国際理解教育外国人サポーターのための初回研修

実施日：令和3年6月19日（土）

方式：オンライン方式による開催

内容：授業の作り方・進め方、授業のデモンストレーションほか

参加者：14名

(ウ) OFIX国際理解教育外国人サポーター育成のための研修

実施日：令和4年1月27日（木）

方式：会場参加とオンライン参加のハイブリッド方式による開催

場所：マイドームおおさか

内容：サポーターによる模擬授業、ワークショップ「お互いの国の紹介」

参加者：7名

(エ) 立命館大学のOICフェスタへの出展

実施日：令和3年11月14日（木）

場所：立命館大学茨木キャンパス

参加者：409名

(オ) 枚方市観光にぎわい部観光交流課の講座

実施日：令和4年3月28日（月）

場所：オンライン方式による開催

参加者：7名

令和3年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。

令和4年6月

公益財団法人 大阪府国際交流財団